

平成 30 年 8 月の市民の声（全 4 通のうち 4 通）

◇雪の利活用について

【ご意見・ご提案など】

NHKの朝のニュースを見ました。

雪でオリンピック会場を冷やすアイデアは素晴らしいと思います。テレビではビーチバレーでしたが、この競技は、会場は砂浜ですが砂浜を掘って下に蓄える構造にすれば、選手が助かるのではないのでしょうか？

また会場をすり鉢状にして風が吹き込まない構造にして会場の上部に雪を並べれば、冷気が下に流れて会場全体を冷やせると思います。

この夏にテレビ局と協力して、どこかの野外イベント会場で実験してみてもいいでしょうか？

この試みが成功するといいですね！

（平成 30 年 8 月 15 日）

【お返事】

励ましのお言葉ありがとうございます。

運搬できる雪の量に制限があるため、一定程度の空間に限って設置しないと、冷房効率に問題があります。今後も、効率的に暑さ対策としての冷房が実現するよう、様々な検討を重ねていきたいと考えております。

（担当：U & I ときめき課）

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658

◇水道料金について

【ご意見・ご提案など】

水道料金が高い。毎月 1 万円以上請求があり、南魚沼市全体で 2 万世帯と考えると単純計算で月 2 億円の徴収がある。それだけのお金を何に当てているのか？広報などで市民への周知を願います。

(平成 30 年 8 月 22 日)

【お返事】

平成 28 年度の経営活動による収入は、消費税抜きで 21 億 5,000 万円でした。そのうち、水道料金による収入は 15 億 1,800 万円であり、全体の収入の 70.6%を占めています。

また、主な支出は次のとおりです。

- ① 供給費用及び施設維持管理費…3 億 5,900 万円
- ② 事業活動全般にかかる一般管理費…1 億 1,400 万円
- ③ 減価償却費…11 億 7,500 万円
- ④ 企業債償還利息等…2 億 6,400 万円
- ⑤ 純利益…2 億 3,800 万円

実際の現金の支出が伴わない減価償却費と純利益は、内部留保資金となります。内部留保資金は、主に浄水場等を建設した際の企業債（借入金）の返済や水道施設更新費用となります。

当市では、以前は地下水を水源としており、水道料金は平均的なものでした。しかしながら、昭和 50 年代後半の高速道路や新幹線の開通による高速交通体系の整備に伴い、スキー場などの観光振興や工場誘致、下水道の整備による水洗化などで水需要が大幅に増えると予想し、さらに冬の消雪パイプ等による地下水利用の競合や地盤沈下が問題になりました。

このことから、安定した水道水の供給を行うため多額の企業債を借入れ、三国川ダムの水を利用して水道水を供給する浄水場を建設し、平成 5 年 10 月から共用を開始したものです。

企業債の残高は、平成 17 年 10 月に南魚沼市、塩沢町及び魚沼地域広域水道企業団の 3 者が統合した時点での 214 億円に対し、平成 28 年度末では 112 億円まで減少していますが、

依然として料金収入とほぼ同額の借入金を返済しており、厳しい経営状況が続いています。今後も人口減少や節水機器の普及などによる料金収入の減少及び水道施設更新費用などにより、経営環境の厳しさは年々増すことが予測されますが、経営改善に向けて努力してまいります。

(担当：水道課)

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658

◇市民バスについて

【ご意見・ご提案など】

路線バス、市民バスを利用したく思いますが、あまりにも本数が少なく2～3時間も間があり困ります。なんとか増やしたり他の方法を考えてください。年配の方々はみんな泣く思いをしています。

市民の切実な声を早く解決してください。これからの冬場をどうするのか、年寄りの目線で考えてください。みんなが年をとりますよ。

(平成30年8月28日)

【お返事】

市民バスは、交通空白地域を解消することを目的として、南魚沼市公共交通協議会で設定した路線を、運行事業者が路線バスと同じように運輸局の許可を受け定期路線として運行しています。市民バスの増便については、市民バスの利用が進んだ段階で実施を検討するべきものと考えており、現時点で行うことはできません。

市では、地域からの要望に対応するため、運行時刻の調整やバス停の移設、年末の臨時運行などに取り組んできました。引き続き年末運行を実施するなど、運行事業者とともに利便性を向上させ、利用者を増加させる取り組みをすすめてまいります。

路線バスについては、南越後観光バス(株)が運輸支局より認可を受けて運行しているものです。路線バスにおいても、利用者の低迷から運営が厳しい路線が多く、増便は難しいものと考えられますが、いただきましたご意見を南越後観光バス(株)にお伝えします。

ご要望にすぐ対応できず、申し訳ありません。現状をご理解いただき、既存の市民バスや路線バスをご利用いただきますようお願いいたします。

(担当：都市計画課)

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658

◇家庭用燃えるゴミ袋について

【ご意見・ご提案など】

主に 2 号袋（30 リットル）を使用しています。

夏場は生ゴミの臭いが気になるので、少し溜まったら出すようにしていますが、2 号袋で出すにはごみの量が少ないため、1 号袋（10 リットル）に入れて出しています。しかし 1 号袋では小さすぎて入りきれず 1 号袋が 2 個になってしまいます。

もう少し大きい【20 リットル】の袋があると有難いです。

可能なら【10 リットル】をやめて → 【20 リットル】に変更。

現在、市で 1 号袋 10 リットルの販売個数を調べてみてはいかがでしょうか？

（平成 30 年 8 月 28 日）

【お返事】

現在、市指定の家庭用「もえるごみ袋」は、10 リットル、30 リットル、45 リットルの 3 種類です。指定ごみ袋の大きさを決めることは大変難しく、市には様々な要望が寄せられています。「10 リットル袋は大きすぎるので 5 リットル袋を販売してほしい。」「10 リットル袋は小さすぎるので 15 リットル袋を復活してほしい。」「30 リットル袋は大きすぎるので 20 リットル袋を販売してほしい。」などです。

以前は、15 リットル袋を製造していましたが、単身者や高齢者世帯、マンション等のごみ量が少ない世帯からの要望があり、10 年程前に 10 リットル袋に変更しました。

ごみ袋の販売枚数は、平成 29 年度実績で、10 リットル袋 71,360 枚（1 組 20 枚 3,568 セット）、30 リットル袋（33,849 セット）、45 リットル袋（58,268 セット）です。10 リットル袋の利用者も相当数いるものと考えられます。このため、すぐに 10 リットル袋をやめて 20 リットル袋に変更することは難しいと思われます。

また、ごみ袋の種類を増やす方法もありますが、製造に係る経費が増加すること、販売店では陳列スペースの確保や在

庫管理などが負担になることから、今のところ考えておりません。

現在、南魚沼市、魚沼市、湯沢町の2市1町では、共同で新しいごみ処理施設を整備する計画を進めています。南魚沼市・湯沢町と魚沼市ではごみの分別方法が異なっており、指定ごみ袋の種類と大きさも一部異なっています。今後、これらの統一を検討するにあたり、皆様のご希望にできるだけ沿えるように進めていきたいと考えています。

(担当：廃棄物対策課)

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658